

第5章 関係詞：もとの文構造を確認

文を長くする要素の代表といえ、関係詞節である。枝葉末節である関係詞節を切り抜けて、幹である文型を正確に見分けられことが英文読解のカギとなる。しかも、目的格の関係代名詞 (who(m)/which/that) や関係副詞 (when/why/that) は省略されることも多いため、自力で関係代名詞の省略を見破り、どこからどこまでが関係詞節なのかを探し出さなければならない。(なお、関係副詞の *where* は省略できない。主格の関係代名詞も原則として省略できない) 関係代名詞の省略を見破る際の目安は、〈名詞 + SV〉を見かけたら〈名詞〉と〈SV〉(Sは特に代名詞)の間に関係代名詞の省略の可能性が高いことと、SVの部分が不完全文(他動詞や前置詞の目的語が欠落している)であることだ。

そして、先行詞を関係代名詞節中の本来の位置に戻して考えないと誤訳してしまう可能性もある。また、先行詞を関係代名詞節中の本来の位置に戻して考えることで、〈前置詞 + 関係代名詞〉の前置詞の意味・役割も見えてくる。

次は文法問題だが、空所に適切なものは①～⑤のどれだろうか。

The teacher () has not yet arrived.

- ① I wrote to you about
- ② who I wrote to you
- ③ I wrote to you about her
- ④ whom I wrote to you
- ⑤ whom I wrote to you about her

文意は「私が手紙でお話しした先生はまだ来ていない」だが、意味だけで考えると、どれでもよいのではないかと思える。まず、①～④は *teacher* の直後にどれも *I wrote* という SV が来ているので、*teacher* と *I* の間には関係代名詞の省略だと判断する。次に、関係代名詞である以上、節内は不完全文になっていなければならない。*write to someone* は「(人)に手紙を書く」の意味で、①～⑤すべてに *you* という目的語があるが、そのために②と④だと節内が完全文になってしまう。また、③と④は *about* の目的語 (*her*) も書かれているので、これまた完全文になってしまう。よって、*about* の後ろが欠落している(不完全文である)①が答えである。もとの文は次の通りだ。

The teacher has not yet arrived. + I wrote to you about the teacher.